



「古屋まさお」とともに歩む

友雅会 ニュース

発行元：友雅会

〒405-0007

山梨県山梨市七日市場816-7

TEL 0553-23-6688

FAX 0553-22-3700

■編集責任者：古屋 雅夫

今年も地域で枯露柿づくりが始まりました。一年を振り返りながら良い年をお迎えください。

視察・研修報告

これからの山梨市を意識した視察・研修

認知症対策、子育て、地域づくり、学校給食、再生エネルギー



山梨市議会議員
古屋まさお

教育民生常任委員会 行政視察・研修報告

10月21日から23日にかけて「教育民生常任委員会」の行政視察を行った。特に本市の「教育・福祉・環境」の課題を意識し、・長野市、三条市、会津若松市に受け入れを頂き有意義な視察を行うことができました。心より感謝申し上げます。

●「認知症初期集中支援チーム」について（長野市）

平成25年厚労省の全国モデル事業に指定され看護師や作業療法士などの専門家からなるチームを地域包括支援センターなどに配置し、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域・環境で暮らし続けられるように認知症の人やその疑いのある人、その家族に早期から家庭訪問し関わりをもって、症状の程度の確認や必要なアドバイスをを行うことで早期の治療や診断につなげ、対象者や家族を支援し、自立生活のサポートを行なっている様子を研修しました。

本市でも本年10月から認知症初期集中支援チームを発足、取り組みが始まりました。認知症の対応策はこれからの高齢者社会における課題です、他自治体の取り組み例も参考にし、より効果的な事業展開ができるよう研修成果を活かしていきたい。

9月30日に9月定例会が閉会しました。秋本番にはいと、秋祭り、小中学校等の運動会、スポーツ大会、各種団体の総会など多くの行事を掛け持ちでこなす日々が例年通り続きました。

一方、議会ではこの時期に各常任委員会、一部事務組合議会等の視察・研修日程も組まれ、私が委員長を務める「教育民生常任委員会」では、①認知症対策に取り組む「長野市」、子ども・若者総合サポート確立した「三条市」、③再生エネルギー事業として地域資源を有効に活用している「会津若松市」を視察しました。

また、会派の研修として「まちづくり・人間牧場」（伊予市）、「医（健康）・食・農」を総合的に結びつけ食べ物と農業から生命を育み大切にすることの尊さを学ぶ「学校給食」を推進する「今治市」の視察を行ないました。

こうした研修成果を市政に反映していきたいと考えています。



← 長野市にて伊万里市と
合同研修

●子ども・若者総合サポートシステム」について（三条市）

このシステムの特徴は、①虐待やいじめ、不登校、発達障害、引きこもりなど、様々な問題、そして就労・自立に至るまで

2面へ続く

市民の会◆研修・視察報告

●地域づくり学ぶ・「人間牧場」

牧場主 若松進一さん（愛媛県・伊予市）



↑ 熱く語る「人間牧場」主若松進一さん

ここには、毎年、全国から多くの人が集まってきて、学習をしたり、体験をしたりして、“人づくり・地域づくり”のノウハウを学んでいる。

「地域づくりは人材育成」と熱く語る若松さん！

「Oh!元気 ねっと」では、「人間牧場」が過疎に悩む地域のまちづくりを一步も二歩も前へ進めてもらおうと、“地域づくり”に携わっている人々を応援するばかりでなく、多くの人たちを受け入れ、リフレッシュさせ、元気にする場として全国から注目されている。

「“地域づくり”は若者が主役となるまちづくりが必要！」この言葉は特に印象的であった。

●愛媛県・今治市 学校給食に

「医（健康）・食・農」を総合的に結びつける

「いただきまーす」子供たちが笑顔で給食をほおぼり始

「人間牧場」は、伊予市双海町（ふたみ）で、“夕日”をコンセプトに“地域づくり”を成功させた人が、“人・家族・地域の再生”をテーマに、開いた“私塾”である。

めると、先生や栄養士さんからの説明が始まる。

「今日の給食のうち、ニンジンと玉ネギと里イモは皆さんの住んでいる立花地区で採れた有機野菜です」「今日の料理は、今治の郷土料理のセンザンキとイギス豆腐です」

今治市の学校給食は「おいしい」と評判で、食べ残す子どもはほとんどいないそうだ。

今治市では、昭和39年に建設された学校

給食センター（24小中学校、2万1000食）の老朽化に伴い自校調理場方式の導入を決め、58年より順次自校方式の調理場を整備し、平成12年に一応の整備を完了した。

この自校式調理場の給食を始めた20年前から、「子や孫に自分たちの作った安全で新鮮な農産物を食べさせたい」という農家のグループの要望に応え、学校給食の食材に地元産の農産物を優先的に使用している。まさに「医（健康）・食・農」を総合的に結びつけ食べ物と農業から生命を育み大切にする事の尊さを学ぶ給食を推進する“今治市“感銘しました。

本市も学校給食施設の老朽化と合わせ、今後の小規模校のあり方などが検討されていますが、学校給食の基本は“おいしく”「安全・健康、食育」であり、施設の充実はもちろん、地産地消を含めたソフト面の充実に力を入れることが重要であると強く感じました。



↑ 学校給食に郷土料理を取り入れる今治市

1面の続き

切れ目なく一貫して、個に応じた必要な支援を総合的に受けられるようにするため、市がその情報を可能な限り一元化して、関係機関・組織と連携して支援するシステム（事業の運営形態）を構築、②この担当組織が教育委員会の所属組織に位置づけられておることによる支援が途切れのないような支援体制となっていた。まさにお金をかけない事業としてのモデルであり、本市の子育て事業においてもハード面と合わせ政策提起していきたい。

●「再生可能エネルギー」について（会津若松市）

会津地域は地域資源を活用した水力発電を始めとして、風力発電、地熱発電などの再生エネルギーのポテンシ

ルが高い地域として知られています。

会津若松市においても、木質バイオマス発電所が稼動しており、メガソーラーと風力発電も予定されており、会津若松河東工業団地においては、木質バイオマス発電所である株式会社グリーン発電会津は、平成24年7月から運転を始めている。これまで、山林に取り残された山林未利用材を燃料としており、二酸化炭素排出量（カーボンオフセット）や森林資源の有効活用につながるとともに、林業の活性化および森林の再生に寄与していました。

本市も地域特性を活かした、間伐材の再利用・活用したエネルギー事業の推進や小水力発電施設の推進に向けた具体化など、自然環境に配慮しつつ、環境にやさしい「再生エネルギー」事業推進にむけ研修成果を活かしていきたい。



★★★★★「友雅会ニュース」あとがき★★★★★

▼今回、視察・研修関連の特集号を作成しました。今年、某県議が政務調査費の使途めぐって世間を騒がせ、市民に誤解をあたえました▼議員活動において先進自治体等研修・視察は不可欠、その内容を市民に報告、市政に反映させていくことの認識が欠けていたのではないのでしょうか▼山梨市議会の政務調査費は月1.5万円、有効に活用し議員としての研鑽に努めます。

<http://www.e-masao.net/>